

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・11月号・付録
2025年11月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <https://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・川喜田尚

放送批評懇談会細則 一部改正案を審議

—9月理事会報告—

9月24日、理事会をZoomミーティングにて開催した。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 茅原委員長

・8月12日、9月18日にZoomで委員会を開催した。

・「GALAC」11月号特集は「戦後80年 記憶をつなぐ」。「ギャラクシー賞」が選び出してきた戦争ドキュメンタリーの傑作たち(藤田真文)、「80年後のいま明らかにする戦争の実相」(松原文枝、伊那ケイブルテレビ)、「戦争と対話」について(阿武野勝彦)、「沖繩と本土の溝は埋まるのか」(渡辺考)、「朝ドラにおける戦争表象」(岡室美奈子)、「『あの日』と向き合うラジオパーソナリティ」(西向幸三、横山雄二、村山仁志)で構成する。表紙は桜井ユキさん、ザ・パーソン

ンは田中熙巳さん(日本原水爆被害者団体協議会)。

・12月号特集は「放送のガバナンスを問う」(仮題)。「フジテレビ問題が残した業界の課題」(砂川浩慶)、「TBSの組織改革の実践例」(井上波)、「『男社会』の構造的課題」(治部れんげ)、「公共性の自覚の欠如」(古川柳子)、「過去の事件から学ぶ、ガバナンス改革の視点」(原真)で構成予定。さらに2025年の政治報道、選挙報道を振り返っての論考を山田健太さんに寄稿を依頼。また、9月2日に逝去された辻一郎さんの追悼ページを設けることとし、執筆を梅本史郎さんに依頼。表紙は中沢元紀さん、ザ・パーソンは五百旗頭幸男さん。

・1月号特集は「第63回ギャラク

シー賞上期」。2月号は「ユニバーサル放送の取り組み」をテーマに内容を検討中。

・連載「報道番組に喝!」の新しい執筆者を引き続き検討する。

◇選奨事業委員会 出田委員長

〈テレビ部門〉 松山委員長

・7月31日にZoomで月評会を開催した。7月度月間賞には、NHKスペシャル「K2未踏のライオン 平出和也と中島健郎の軌跡」(NHK)、明鏡止水「侍・大谷翔平」(NHK)、NHKスペシャル「命を診る 心を診る」小児集中治療室の日々」(NHK)、EIGH T→JAM「ブランキーとミッシェルがいた時代」90年代バンド史」(テレビ朝日)の4本を選出した。

・8月29日にZoomで月評会を開催した。8月度月間賞には、NHKスペシャル「広島グラウンドゼロ 爆心地500m 生存者たちの原爆」(NHK)、戦後80年ドラマ「八月の声を運ぶ男」(NHK)、NNNDキュメント25「ガマが消える前に 埋もれゆく戦争の記憶」(日本海テレビジョン放

送)、テレメンタリー2025 シリーズ戦後80年「軍都80年」ものづくりと防衛産業(名古屋テレビ)の4本を選出した。

〈ラジオ部門〉 桜井委員長

・8月25日にZoomで合評会を開催した。「戦後80年関連番組」をテーマに、「まるっと日常ワイド えんまん。被爆80年特別企画」(中国放送)、戦後80年特番「有楽町・女学生の戦争」劇場で作った風船爆弾(ニッポン放送)、「終戦80年スペシャル 小松左京原作 ラジオドラマ『くだんのはは』(文化放送)を聴取し議論を交わした。

・9月12日にリアルで合評会を開催した。「夫婦でパーソナリティをつとめる番組」をテーマに、「石川家のフフラジオ」(山陰放送)、「アイモコの音楽農園」(ラジオ沖縄)、「純れのん一日瞭然」(FM三重)を聴取し議論を交わした。

・63回上期よりラジオ部門の作品データの提出方法をストーリーミングのURLを記載する形に変更予定だったが、著作権など諸問題の精査が必要となったため、今期は従来の形で応募を受け付けることとした。

〈CM部門〉 家田委員長

・7月24日にハイブリッドで定例会を開

催し、40作品のCMを視聴した。大塚製薬カロリーメイト「怪獣たちとの夏休み篇」や、本田技研工業「ダイナミックな走行篇」などのCMが注目を集めた。

・8月21日にハイブリッドで定例会を開

催し、39作品のCMを視聴した。「はま寿司」や「伊藤園 おくいお茶PURE GREEN」などでの食べ方や飲み方の変化について議論を交わした。その他、TOPPANのデジタル木材やキリン一番搾りの縦型動画が注目を集めた。

・7月22日に目白大学で「CMを見る・聴く会」を開催した。参加生徒数120名。

・63回上期より、応募要項で応募作品の長さを30分以内に制限することとした。

〈報道活動部門〉 古川委員長

・9月16日にZoomで意見交換会を開催した。戦後80年関連報道やテレビ局発のドキュメンタリー作品映画化、選挙報道などについて議論を交わした。

◇企画事業委員会 長井委員長

・8月7日にZoomで委員会を開催し、次回セミナーは「リスペクトトレーニング」をテーマとすることを決定。リスペクトトレーニングを提供している会社「ピースマインド」担当者と打合せを行い、開催の可能性を協議中。

・ハイブリッドでの開催を目指し、新宿5丁目の貸会議室を候補とする。

・開催時期は11月下旬または12月上旬で調整中。

◇広報委員会 滝野委員長

・8月1日にリアルで委員会を開催した。
・マイベストTV賞グランプリが第20回の節目となるため、何らかの施策を行うか検討した。

・7月31日、HP「オリジナルコンテンツ」に「座談会」2025年夏ドラマを語る!」掲載。

・8月7日、HP「ギャラクシー賞受賞作」に作品画像を追加(第60回)。

・Gメンバー1135人(9/19現在)。
・マイベストTV賞6月度月間ノミネートは、土曜ドラマ「ひとりだしにたい」(NHK)、ドラマW「三谷幸喜「おい、太宰」(WOWOW)、「あなたを奪ったその日から(関西テレビ)」に決定した。

・マイベストTV賞7月度月間ノミネートは、ドラマ24「40までにしたい10のこと」(テレビ東京)、木曜ドラマ「しあわせな結婚」(テレビ朝日)、「僕ははまだその星の校則を知らない」(関西テレビ)に決定した。

2. 会の強靱化について

①「NPO法人としての放鬆のあり方」

検討ワーキングチーム、メンバー

メンバーに藤田真文常務理事が加わった。顧問弁護士の木嶋望弁護士にオブザーバー参加を依頼した。

②細則の一部改定

第1条理事の選出について以下の改定案を提出し、審議した。

・理事候補者の選挙権は入会后1年以上とする。

・理事候補者の被選挙権は入会后3年以上とする。

③正会員入会申込書の一部改定

「著書または論文」欄に「放送に関する批評文」の追記、本人確認書類の添付を求める改定案を提出し、審議した。

・②③について、細部修正し顧問弁護士に確認のうえ、10月理事会に再度提出する。

3. 選挙管理委員会について

選挙管理委員候補を選出した。10月理事会で選挙管理委員会を発足する。

理事選挙・告示日 11月20日～30日
理事選挙・開票日 12月10日～15日

4. その他

①入会・退会の件

〈維持会員入会〉TVer

〈正会員退会〉隈部紀生さん、辻一郎さん

今後の会議スケジュール
10月28日、11月25日

【出席】音好宏、川喜田尚、出田幸彦、桜井聖子、茅原良平、松山珠美、家田利一、古川柳子、長井展光、滝野俊一、岩根彰子、風間恵美子、加藤久仁、国枝智樹、五井千鶴子、小林毅、仲宇佐ゆり、渡邊悟、中島好登

会議記録

8月	7日	企画事業委員会
	12日	出版編集委員会
	21日	(選奨) CM定例部会
	25日	(選奨) ラジオ定例部会
	29日	(選奨) テレビ月評会
9月	12日	(選奨) ラジオ定例部会
	18日	出版編集委員会
	24日	理事会
	26日	(選奨) CM定例部会
	29日	(選奨) テレビ月評会
	30日	広報委員会

Gメンバーサイトで「GALAC」バックナンバーを閲覧できます!

Gメンバーサイトでは、「GALAC」2016年1月号以降の電子版を正会員限定で閲覧いただけます。ぜひご活用ください!

* ログイン情報は毎月の「マイベストTV賞投票」のお知らせメールをご参照ください。



こちらから



三つのまなざしでテレビに向かう

北波英幸

本年より末席に加えていただく北波と申します。テレビっ子として育ち20世紀末から4半世紀、在京番組制作会社でディレクター・プロデューサーをつとめました。「専門」と言えそうなのは「おたく」であることが某局のプロデューサーにバレて、ある時期のアニメ特番にはことごとく関わったことくらいでしょうか。

そのあと、大阪・千里の大学院で博士号取得。博士論文は日本のアニメーション産業史だったので「テレビまんが博士」を地で行っています。現在はメディア研究者として、また大阪・堺の大学で実務と理論の教鞭をとる三刀流です。

カメラに映らぬ向こう側、番組を観る側、俯瞰する研究者視線。三つの視点を忘れぬよう、テレビっ子時代よりは多少成長したと信じつつ、多くの人に触れてもらいたい番組を埋もれさせることなく探します。

さまざまな議論にも参加したいと存じます。どうぞよろしく願います。

新入正会員自己紹介

時代を映すテレビ

藤田多恵

男女雇用機会均等法制定前年にテレビ局に入社し、40年間に在籍しました。報道記者や情報番組の制作を経て、長く人事や人材開発に携わってきました。この間、女性の働き方も大きく変化しました。女性も深夜勤務をするようになり、育児休職制度もでき、何よりも女性の制作者が増えました。

働き方だけでなくメディアを取り巻く環境も激変しました。インターネットの登場そしてAI時代の到来と圧倒的なスピードで変化し続けています。今やテレビを見ない人も多くなるなかで、テレビの役割は終焉したのでしょうか。

テレビは時代を映す鏡だと思います。そこに映るのは私たち自身です。その姿を見ることで私たちは自分たちの現在地を確かめ、進むべき道を考えることができますのだと考えます。これからもテレビは「時代の鏡」として、私たち自身を振り返り、未来を考えさせてくれるものであってほしいと願っています。

公式ホームページの正会員ページ、 情報更新にご協力ください！

会の公式ホームページには、正会員一覧と会員情報を掲載中です。情報が過去のものとなっていいらっしゃる方は、更新の手続きをお願いいたします。事務局あて、変更内容をメールでお知らせください。

回答先アドレス kondankai@houkon.jp



ホームページ正会員一覧